

「JENESYS2018」アジア国際子ども映画祭 2018 参加訪日団(招へいプログラム)の記録 (対象国：中国、テーマ：アジア国際子ども映画祭)

1. プログラム概要

中国教育部が派遣したアジア国際子ども映画祭 2018 参加訪日団 10 名が 11 月 20 日から 11 月 28 日までの 8 泊 9 日の日程で来日しました。

訪日団は、北海道北見市で開催された第 12 回アジア国際子ども映画祭、及び関連プログラムに参加したほか、東京にて中等教育学校を訪問して日本の生徒と交流した。また、北海道と東京で日本の政治・文化・歴史・自然など、様々な分野の視察・参観を通じて、包括的な対日理解を深めました。報告会では帰国後のアクション・プラン（活動計画）について、発表しました。

【訪問地】東京都、北海道

2. 日程

11 月 20 日（火）

羽田国際空港より入国

【見学】お台場、根津美術館

【オリエンテーション】

11 月 21 日（水）

【見学】パナソニックセンター東京

北海道へ移動

【表敬・交流】北見市・ウェルカムセレモニー

11 月 22 日（木）

【テーマに関する交流】映画祭作品視聴

【学校交流】北見情報ビジネス専門学校・オホーツク社会福祉専門学校

11 月 23 日（金）

【見学】オホーツク流氷館、北網圏北見文化センター、北見ハッカ記念館

【テーマに関する交流】交流会

11 月 24 日（土）

【見学】北の大地の水族館

【テーマに関する交流】アジア国際子ども映画祭本選大会、アフターパーティー

11 月 25 日（日）

【見学】阿寒湖、アイヌコタン

【体験】ボッケ自然探勝路ガイドツアー、温泉旅館宿泊

11 月 26 日（月）

東京へ移動

【見学】浅草寺

11月27日（火）

【視察】国会議事堂

【学校交流】東京学芸大学附属国際中等教育学校

【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表

11月28日（水）

羽田空港より帰国

3. プログラム記録写真（訪問地：東京都、北海道）



11月21日【見学】パナソニックセンター東京



11月21日【表敬・交流】北見市・ウェルカムセレモニー



11月22日【学校交流】
北見情報ビジネス専門学校



11月22日【学校交流】
オホーツク社会福祉専門学校



11月23日【見学】オホーツク流水館



11月23日【見学】北網圏北見文化センター



11月23日【見学】北見ハッカ記念館



11月23日【テーマに関する交流】交流会



11月24日【テーマに関する交流】
アジア国際子ども映画祭本選大会



11月25日【見学】阿寒湖



11月25日【体験】
ボッケ自然探勝路ガイドツアー



11月27日【視察】国会議事堂視察



11月27日【学校交流】
東京学芸大学附属国際中等教育学校



11月27日【報告会】団員による感想・アクションプラン発表

4. 参加者の感想（抜粋）

○今回の訪日活動中、最も印象に残ったのは北見市と東京での学校交流だ。北見市では専門学校を訪問した。その学生たちは、ある1つの専門技術を学んでいる。ごく一般的な学校訪問だと思って訪れたが、私たちが迎えてくれた学生たちの情熱に深く心を打たれた。幼稚園の教員を育成する学科（オホーツク社会福祉専門学校）での交流では、日本の学生たちから簡単なゲームを教わっただけなのに、彼らの誠実で熱心な態度に感動した。今まであんなに純粋な気持ちでゲームに参加したことはない。彼らの熱意と真心に動かされたと言っていだろう。

○北見情報ビジネス専門学校、オホーツク社会福祉専門学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校を訪問した。訪れた学校はいずれも学生が学ぶ専攻は異なる。視察と交流を通して、日本の学生の熱意と明るさ、学習への集中力、部活動に熱中する気持ちを感じた。また、日本の学生の英語レベルは高く、交流がさらにスムーズにできるようになったと感じた。

環境と施設の面で、私たちが日本の学校から学ぶところが多い。1校の生徒数は中国に比べてかなり少なく、校内のより多くのスペースを体育館や部活動の部室などに使える。中国

の学校には日本ほどさまざまな施設がない。中国の学校も現実的な範囲で改善させていってほしい。

○今回の活動で印象深かったのは、日本人の仕事や学業に打ち込む精神だ。この勤勉さは、責任を持って仕事を全うすることに限ったものではなく、仕事に向き合う熱意や、彼らが注ぎ込む思いの上に表れている。例を挙げると、阿寒湖のポッケ自然探勝路ガイドツアーだ。ガイドさんは自分の知識を伝えることと趣味を結びつけて、大きな情熱をもって私たちと交流してくれた。解説を補足する面白い道具をいろいろ作ったりして、仕事を本当に愛していることが分かった。アイヌコタンでは、どの民芸品店もオーナー自身が職人で、彼らが創作技術に向き合う気持ちは、とても貴重なものだった。

○日本が特定の地域の文化のことを、広く宣伝し保護していることを知った。規模は異なるが、日本各地に博物館があり、国内の別の地域や海外から来た観光客へのPR方法にもそれぞれ文化的特色がある。

例えば、網走地区にはまだ200年くらいの歴史しかないが、現地の博物館は、この200年の変遷を詳しく紹介しており、私たちはとても明瞭かつ全面的に網走について理解することができた。

現在の中国は、伝統文化の宣伝や保護を完璧には出来ていない。今回の交流を通して、私たちも文化の宣伝や保護をもっと重視すべきだと思った。

5. 受け入れ側の感想

◆日本高校生

○私は、この学校交流を行って、とても視野が広がりました。中国語を選択したときは、中国の文化についてあまり身近に感じたことはなく、地方によってさまざまな違いがあることも知らなかった。しかし、今回直接話したり、学校紹介では中国の学校の仕組みや日本との違いについて話して、自分たちが知らなかったことや、気付かなかったことを知ることができて、とても面白かったし、視野が広がった。

また、授業では自分たちが作ったプランを実際に行ったことで、自分たちの課題点も明らかにすることができた。それだけではなく、コミュニケーションをとりながら日本について話すことは楽しかったし、このような機会は大切だと感じた。

○中国から来てくださった方たちを中国語の授業を選択しているとはいえ、まだまだ素人で、英語も不得意な私に対応するのは不安があったが、中国の学生たちはとてもフレンドリーで、笑顔で話をしっかりと聞こうとしてくれ、コミュニケーションをとろうと努力する姿勢はとても良いなと思った。

互いに理解しようとする気持ちさえあれば、異なる言語を使用する者の間でもコミュニケーションをとることは、そこまでハードルの高い、恐れるものではないと感じつつ、同時に英語、中国語などメジャーな言語を学び、世界を相手にコミュニケーションがとれる力をつけることが大切と再認識し、勉学に励み、力をつけたいなと思った。

○私たちは英語の時間にゲストオーディエンスとして中国人9人を迎え入れた。英語の授業

で絶滅危惧言語について学び、その学んだことを他人に伝えるというイベントを行った。私たちは、八重山語と与那国語にフォーカスして、それらに親しみ、認知度をあげるために行った。難しかったことは、中国の生徒にそれらを説明することだ。彼らにとっては沖縄も身近でない島であり、数百、数千人のその島の人々が日本人の我々にも理解できないような言葉で話をするのに驚いたようだった。

次に、私たちの学校や部活を紹介した。実際に音楽部で演奏を聞いたり、バスケットをしたりした。皆、自分たちとは違う学校のシステムを見られて楽しそうだった。

私は高1年から第2外国語として中国語を履修しているため、役に立つと思っていたが彼らの話すスピードは速く、単語が理解できるくらいだった。もっと勉強し、日常会話が難なくできるレベルになりたいと思った。短い時間だったが、話をするのができ、よい経験となった。

6. 参加者の対外発信

11月22日／学生／WeChat	11月23日／学生／Wechat
	<p data-bbox="831 920 1066 954">这才是北海道啊</p> 
<p data-bbox="185 1471 778 1547">学校交流についての発信（北見情報ビジネス専門学校、オホーツク社会福祉専門学校）</p>	<p data-bbox="810 1471 1078 1547">日本理解についての発信 これが北海道だ。</p>

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表



- ・ 帰国後、家族や友人に今回の日本での活動内容を伝え、日本の良い文化を広める。
- ・ 日本に関するイベントがある際には、友人や家族をさそい、積極的に参加したい。
- ・ 日本について更に理解を深め、日本語を勉強した後に、また日本を訪れたい。
- ・ 学校で訪日活動を報告し、日本で経験したことを発表する。